

上田地域の整備方向

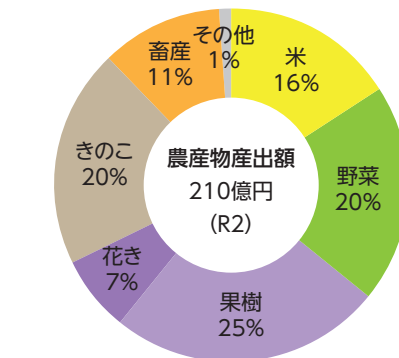
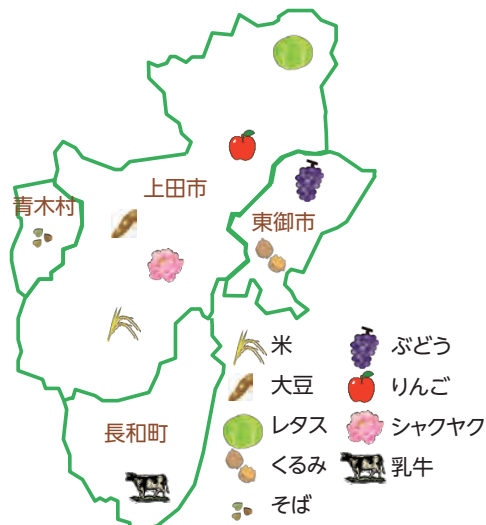
地域農業の特徴と農地の整備状況

○地域農業の特徴

標高420mから1,300mに位置する標高差のある農地と、年間降水量890mm程度の少雨多照な気象条件を活かし、水稲や畜産のほか、果樹や野菜、花きなど多様な農業が展開されています。

平成27年に近隣8市町村で千曲川ワインバレー（東地区）特区を取得後、近年はワイナリーの集積が進み、良質なワイン産地として知名度が高まっています。

また、棚田やため池などの農業資産を観光資源として活用する取組が盛んで、都市住民との交流活動などが実施されています。

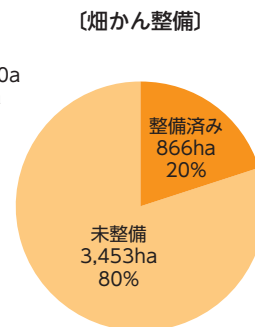
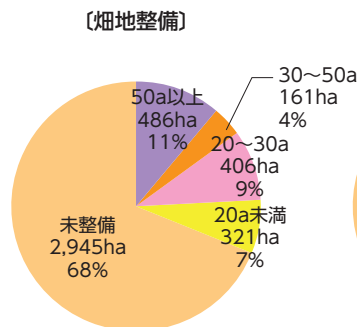
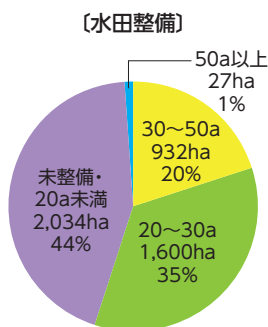
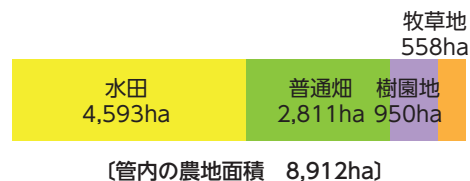


○農地等の整備状況

昭和40年代から各地では場整備が進められ、水田の約8割が整備済です。20a以上の区画の整備率は、県平均と同様に56%です。

畑地の整備率は、32%で県平均（35%）並みとなっています。

また、管内125箇所ある防災重点農業用ため池のうち、14箇所には、監視カメラと水位計が設置され、ため池の水位を遠隔監視することができます。



〔基幹的農業水利施設の一覧〕

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)
延長・箇所	106	25	3	19
		水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
		20	23	9

〔農業農村整備事業によるICTやスマート農業の導入状況〕

水門を自動化・遠隔化した施設	畑かん制御施設 (ローテーション散水制御、集中制御等)
<p>4か所 依田川頭首工ほか</p>	<p>3地区 492ha 塩田地区ほか</p>
ため池の遠隔監視	
<p>14か所 沢山池、塩之入池ほか</p>	

地域の現状と課題

- ▷ 降雨が少なく、用水不足が生じやすい地域であるため、用水を安定供給する農業水利施設の計画的な整備・改修が重要です。
- ▷ ため池が多い地域であり、ため池の耐震化工事など、農村地域の安全安心を確保する取組が必要です。
- ▷ 流域の宅地化等が進み、排水を受け入れている水路では、溢水被害の発生が懸念されています。
- ▷ 近年多発するゲリラ豪雨に対応するため、適時適切なゲート操作が可能となるゲートの自動化や遠隔化が求められています。
- ▷ 高齢化や後継者不足により集落機能が低下し、水路の泥上げ・草刈りといった地域の共同活動に支障をきたすことが懸念されています。
- ▷ 菅平ダムやため池、棚田などの役割や歴史が幅広く理解されるよう、継続した情報発信が求められています。



ため池の耐震化工事が進む塩田平地域（上田市）

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標

○農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数

現状（R3年度）

→

目標（R9年度）

1か所

4か所

整備方向

- ▷ 農業用水の安定供給を確保するため、基幹的農業水利施設を補修・更新します。
- ▷ 生産性の向上を図るため、スマート農業技術やDXなどの新技術導入に取り組み、農業者を支援します。
- ▷ 農地の集積・集約化を可能にする生産効率の高い基盤整備を促進し、地域の担い手を支えます。
- ▷ 地域が目指す営農を実現するため、地域の実情に則した農地や農業水利施設等の条件整備を進めます。



県営かんがい排水事業菅平地区では、菅平ダムの老朽化した取水ゲートの更新工事を行っています。

II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○防災重点農業用ため池の対策工事の着手箇所数	21 か所		29 か所
○自動化・遠隔化された農業用水利施設の水門数	4 か所		19 か所

整備方向

- ▷ 安全安心な農村地域の実現に向け、防災重点農業用ため池の耐震化やハザードマップの作成など、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を推進します。
- ▷ 集中豪雨による氾濫防止のため、迅速なゲート操作が必要となる農業水利施設について、管理の省力化や安全確保を図る施設整備を進めます。
- ▷ 農業水利施設の維持管理に係る農業者の負担軽減を図るため、農業用水を活用した小水力発電や農業用施設を活用した太陽光発電の導入を支援します。
- ▷ 中山間地域等の条件不利地域における営農環境の改善や農村の暮らしを支えるため、農業水利施設や農道など、きめ細やかな基盤整備を進めます。
- ▷ 地すべりの発生を未然に防止するため、長寿命化計画に基づき地すべり防止施設の更新・補修を進めます。



耐震化工事が完了した下之郷新池（上田市）

III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

整備方向

- ▷ 農村がもつ様々な役割（多面的機能）を将来にわたり十分発揮させるため、農地や農業水利施設等を適切に保全管理する地域ぐるみの共同活動を支援します。
- ▷ 菅平ダムやため池、棚田などの農業資産の魅力や役割を積極的に発信するとともに、地域住民と都市住民がともに行う農業資産の維持保全活動を支援します。
- ▷ 農業資産の役割や歴史が幅広く理解されるよう、地域学習の教材として活用する取組を支援します。



ため池の堤体に生育する希少な植物を保全するため、学識経験者の指導のもと地域と連携して移植等を行っています。

TOPICS

魅力あふれる上田地域の農業農村

荒廃農地を優良なワイン用ぶどうの生産団地に再生

荒廃が進み林地化していた農地をワイン用ぶどうの新たな生産団地に再生させるため、平成27年度から整備を進めてきた、県営畑地帯総合土地改良事業 祢津御堂地区（東御市）に、23.7haの広大なぶどう畑が完成しました。完成した区画から順次苗木が植え付けられ、令和3年に収穫したぶどうからワイン醸造がスタートしました。千曲川ワインバレー東地区における主要なワイン用ぶどうの生産団地の完成により、さらなるワイン振興が期待されます。



整備前



整備後



一面に広がるぶどう畑

上田地域のため池

○安全安心の確保

管内に125箇所ある防災重点農業用ため池のうち、下流への影響度が大きいため池67箇所について地震時の安定解析を行ったところ、対策工事が必要なため池が29箇所ありました。このうち令和4年度までに21箇所に着手し、13箇所です工事が完成しています。残る8箇所は、令和9年度までに順次工事に着手していきます。

○ため池に関するニュース

- ・令和4年7月、塩田平地域（上田市）にあるため池41箇所が、「塩田平のため池群」として、文化庁から日本遺産「レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～」の構成文化財に追加認定されました。
- ・吉田池（上田市）では、県下初となるため池を利用した水上太陽光発電施設が令和4年11月に稼働しました



下流に住宅街のある宝池（R2完了）



ため池でカヌー遊び in 舌喰池



舌喰池で行われる雨乞い行事「百八手」

稲倉の棚田【つなぐ棚田遺産・日本の棚田百選】

「稲倉の棚田」（上田市）では「稲倉の棚田保全委員会」が中心となって棚田の保全活動を行っています。棚田オーナー制度や棚田キャンプ・ししおどしなどの体験交流イベントの開催のほか、田植え体験や生態系調査など学習の場としても活用し、地域の発展に繋げています。

稲倉の棚田保全委員会の活動が「全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るもの」として評価され、令和4年度に農林水産祭「むらづくり」部門で、最高賞の天皇杯を受賞しました。



稲刈りの頃



棚田キャンプ



ししおどし